

学長 [REDACTED] 先生

拝啓、紅葉もそろそろ終わり落ち葉の季節になりました。

先日はご出張中のところ、私のためにお時間を下さいまして誠にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

その後、私なりにこれまでの事を整理致しました結果、この一年持ち続けておりました疑問が解けた様に思います。先生が仰いました通り、これだけいろいろな話を聞いてしまうと結局は私が何を信じるか、信じられるかと言う事になります。私は [REDACTED] 信じたいと思います。失礼な事を申し上げますが、 [REDACTED] 先生、 [REDACTED] 先生が今どの様に説明されているかは意味を持たないと思います。事務官の方々には、お騒がせして心苦しい思いがございません。

私の結論は、表に出ている話が事実かどうかではなく、伏せられていた事があると言うことです。空席ひとつに三つの話があり、席を貸す話についてはすでに大学の方針が出されていたと言う事です。 [REDACTED] 知らされていませんでした。その講座の先生からは一切働きかけがない事、7月の時点で [REDACTED] の分ではなくなったはずなのに夫に対し要求が続く事、次は短期助手を採れとなった事、それに対する [REDACTED] 意向を誰も理解しない事が不思議でした。これまで出ている話はこの条件を加えると説明がつく様に思います。恐らく [REDACTED] 後になって事情を知ったと思いますが、最後まで私には何も申しませんでした。先生のお話の中で私ははじめて知りました。どれ程のショックであったか、私自身、言葉が出ません。

[REDACTED] 喜怒哀楽をともにする中、助手の話がいつまでも続くことに私も疲れました。そしてこの一年でくたくたになりました。疑問を抱えたまま、一足飛びに気持ちを切り換えて前に進むことはできませんでした。大学の現場にいたのは [REDACTED] 私ではありません。私があればこれ口にするには本来筋違いであると承知致しております。問うのは一度だけと心に決めておりましたので、これで終わりたいと存じます。

学長様から御説明を頂きました事を深謝致しますと同時に、直接関係されておられない方々をもお騒がせし、ご迷惑をおかけいたしました事をお詫び申し上げます。

最後に、学長様には、私ども [REDACTED] がその時々どの様に判断をして参りましたかを、これも一度だけお聞き願いたいと存じます。

助手採用を考えるに当たり、所謂「根まわし」が必要かを考えたことがあります。結論は、「私たちには早すぎる。40そこそこの助教授がそれをしたら逆に信用を失う。センター長を信頼しているのだからこれで良い」でした。

話が白紙になった事について、当然納得はできませんでした。しかし、「決定には従う。候補者に対しては、JAISTの人間として窓口になった以上、責任をとる意味と、先方の心情を考えて、今後は(或いは当分は)助手なしでひとりでやって行く」と決めました。助手はいらないとの考えに至ったのは7月以降です。

席を貸す話が続くことについて、私は夫に、「心情的なものは別として、あなたが彼の将来の心配をする必要はない。それは教授の役目。この状況であなたにそんな余裕はないはず。このやり方は、彼に対しても気の毒だと思う」と申しました。

■■■■先生は、「■■■■深入りしている」との印象を持たれたそうですが、それは全くの誤解です。深入りどころか、「そっとしておいて欲しかった」と言うのが、私ども■■■■の気持ちです。かけ出しの助教授が持てるのは、信頼と信用の物差しだけです。これを捨てる事はできません。教授の方々から見ると、それは甘い、それだけでは生き残れないと言う事なのかも知れません。別の物差しもいずれは必要であったでしょうが、私たちには早すぎました。

今回の事は、夫以外は全員教授でした。そして誰も何も失っていません。夫は私に信用と信頼を残してくれたと思います。そのお陰で、今私は仕事をさせていただいております。誠に悲しいです。

■■■■先生には、今からでも結構ですので、■■■■という人間をご理解頂きたく心よりお願い申し上げたいと存じます。

かしこ

■■■■ 11月20日

■■■■